

◇はじめに・本発表の目的	2
1. 「できること・事実認識」と「とても必要・評価」のズレを問う	4
1) 本調査での問いの構造の再確認	
2) 「できる」と「必要」(とても、やや、あまり、まったく)	
9種の質問項目への問いの結果は	
3) 「できる」と「とても必要」にズレが生じる社会的文脈(その1)	
4) 「できる」と「とても必要」にズレが生じる社会的文脈(その2)	
2. 教科等別14種の「活用しやすい」の割合から見えてくるのは	12
1) 調査結果を「活用しやすい(グリーン)」の選択率順位で並べると	
2) 選択率順位で並ぶ「活用しやすい(グリーン)」の数値に注目すると	
3) 14種の教科等のパワーバランスと小学校教員の判断基順	
4) 教科等14種のパワーバランスが示唆する小学校教員の判断基順(その1)	
5) 教科等14種のパワーバランスが示唆する小学校教員の判断基順(その2)	
6) 教科等14種のパワーバランスが示唆する小学校教員の判断基順(その3)	
7) 教科等14種のパワーバランスが示唆する小学校教員の判断基順(その4)	
8) 教科等14種のパワーバランスが示唆する小学校教員の判断基順(その5)	
3. 壁は日本の公立小学校教育の優位性	23
1) 判断の基準は教科書の特性の差(その1)	
2) 判断の基準は教科書の特性の差(その2)	
3) 判断の基準が教科書の特性の差を超える!!(その1)	
4) 判断の基準が教科書の特性の差を超える!!(その2)	
4. 日本の公立小学校教育の“優位性”が“脆弱性”に	28
1) 学校教育DXの是非を問う課題となる	
4種の法制度が統制する教育システムⅠ.Ⅱ.Ⅲ.Ⅳ	
2) 学校教育DXの是非を問う課題となる法制度(その1)	
3) 学校教育DXの是非を問う課題となる法制度(その2)	
4) 学校教育DXの是非を問う課題となる法制度(その3)	
5) 学校教育DXの是非を問う課題となる法制度(その4)	
6) 学校教育DXの是非を問うための課題4項目	
7) 日本の公立小学校教育の“優位性”が学校教育DXを妨げる“脆弱性”に	
5. 結語に代えて	36
◇二つの事情◇	
◇三つの希望(その1)◇	
◇三つの希望(その2-1)◇	
◇三つの希望(その2-2)◇	
◇三つの希望(その3)◇	
◇注記・参考文献◇	